

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
 会長 浦田日出雄
 事務局長 齋藤 昇一
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>
 印刷所 ㈱北海プリント
 TEL (011)811-2396

第38回 全国学校図書館研究大会 米子大会 (8月8～10日) 「学びを広げる ひとをはぐくむ 学校図書館」

■全国大会の研究の重点・新しいメディアの活用・今西乃子氏の講演——

北海道学校図書館協会 研究部長 佐藤 敬子

「ことばの力を培い、豊かな出会いを創る」をサブテーマに、8月8日から10日まで開催された米子大会。米子コンベンションセンター・米子市文化ホールを会場に、全国各地から1700名を超える参加者が集い、熱心な研究交流がなされました。

北海道からも発表や司会等も含め、多くの方々が参加し、思わぬ場所であって歓声を上げるほほえましい光景が見られました。

大会の研究主題を具体化した5つの重点は、

- ①探究的な学びを育てる学習・情報センターとしての学校図書館
- ②感動を生み出し、ことばの力を培う読書センターとしての学校図書館
- ③司書教諭・学校司書を核に全校で学びを創る学校図書館
- ④特別な教育的ニーズに応え、児童・生徒を支える学校図書館
- ⑤地域や家庭と連携する学校図書館

…となっており、これらのもと、講演や研究討議、フォーラムなど79の分科会が展開されました。前回の静岡大会に比べ、③に見られるように「全校で学びを創る」ことの重要性が指摘され、④の「特別な教育的ニーズに応える」ことがさらに大きくクローズアップされたように見受けられました。

私個人としては、参加して特に感じたことが2つあります。そのひとつは新しいメディアの活用についてです。私が司会をさせていただいた分科会の発表は、Twitterやfacebook、Ustreamなどのsocial networking service (SNS)でできる人と人とのつながりを学校図書館の研究や交流に積極的に生かしていこうというもので、その新しく力強い流れを感じました。

またもうひとつは「いのちの問題」です。今回、いろいろな方の講演をお聞きしましたが、中でも一番印象に残っているのは今西乃子氏による「いのちの授業」でした。氏はノンフィクションの分野で活躍されている方ですが、その著作には一貫して「いのちの重さ」についての深く強い思いが流れています。学校を訪問して実際に授業をされるのだそうですが、それを再現してくださり、自身が取材した写真や動画を使った迫力あるお話とそこから得られる感動の大きさに圧倒されました。おりから他の分科会でも学校図書館を中心とした震災からの復興について語られたり、「生きる」ことと読書の強い結びつきに言及されたりしていて、まさにそういった面でも「生」と学校図書館について考えさせられる大会となったように思います。

これから北海道の学校図書館としても「子どもたちがよりよく生きていくためにどうあらねばならないか」を常に念頭において研究を進めていきたいと考えています。

■情報活用スキルの習得・読書へのアニメーション——

札幌市立小野幌小学校 司書教諭 山田 佳子

連日30度を超す猛烈な暑さも吹き飛ばすほど、充実した3日間を過ごすことができました。「情報活用スキルの習得」では、集めた情報を整理してまとめる際に考える手助けとなる付箋やワークシートを実際に使用してまとめる体験をしてみました。「比較する」、「分類する」、「多面的にみる」など、どのように考えを深めたら良いか、子どもたちへの具体的な言葉かけについても学ぶことができました。

また、2日目に参加したワークショップ「読書へのアニメーション」では、実際に子どもの立場になって作戦に参加し、楽しみながら実行する際のポイントを学ぶことができました。高学年向けの作戦「本と私」では『いまましい石』(クリス・ヴァン・オールズバーク作 河出書房新社)を読み、決められた観点に沿って感想を発表するだけでなく、自分たちの問題と比較して考える手法について学びました。本を仲立ちとしたコミュニケーションが子どもを読書へ導く有効な手立てであることがわかりました。

どの講座も、全国から集まった参加者の熱気と講師・発表者の様々なアイディアにあふれ、さっそく取り組んでみたいとわくわくしながら参加させていただきました。これからの自校での実践へつなげていきたいと思ひます。

第38回 全国学校図書館研究大会 米子大会

■発表「図書委員会の指導」：知的、快適、異空間——

北海道北広島西高等学校 教諭 畠師 広光

本校では、部活動として「図書局」の生徒が毎日活動している。全国大会の発表にあたって、これまでの活動を振り返りながら、「知的、快適、異空間～北海道北広島西高校図書局員はいかにして鍛えられたか～」と題し、以下のとおり報告させていただきました。

(1)本校図書館の紹介

(2)図書局の活動概要

(3)自分で、自分たちで

- ①年間指導計画を立ててみる
- ②図書館利用のしおりを作る
- ③他校の仲間を見つけて交流

(4)知的空間を目指して

- ①3万冊以上の蔵書を管理する
- ②進路に役立つ情報を収集する
- ③情報は図書日より発信

(5)快適空間への道のり

- ①来館者に心地良い空間を
- ②多目的スペースをつくろう
- ③オリジナルをつくろう

(6)異空間も面白い

- ①ディスプレイの腕を磨いています
- ②館内レイアウトを考えています
- ③毎日何かが変わっています

(7)地域に貢献するという事

- ①図書館講座にご招待!
- ②企画展「僕たちの知らない昭和展」開催!
- ③あの有名書店で読み語りに挑戦!

本校図書局は、現在5名の生徒によって運営されているが、私を含めた3名の顧問が「指導」している感はほとんどなく、自主的に活動している。もちろん、毎月の図書日より「楓」の発行や、年3回の地域開放「図書館講座」など、事前打ち合わせや最終確認はするものの、時間的には短い。3年生が中心ということもあり、これまでの経験を生かして、自分たちのペースで試行錯誤しながら、毎日活動している、といった感じであろうか。

上記の報告に関して、会場から「生徒が企画・運営する図書館講座の市民へのPR方法は」という質問があった。回答は「大手書店や公共図書館に案内のチラシを置いてもらったり、市の広報誌に掲載している」のだが、高校の図書館に人を呼ぶのは簡単なことではない。そこで、一度でも講座に来ていただいた方には生徒手作りの招待券を郵送している。

このあと、討議のまとめでは、「高校生になると生徒は多忙になる。その中でいかにして図書委員会を活性化させるか。やる気のある生徒の力を今以上に伸ばすにはどうすればよいのか」について意見交換が行われた。また、図書委員は単なる図書館運営の助手にあらず、図書館担当者がどのような教育目標を持って、実践していくかが重要であることを参加者全員で確認した。

最後に、長期にわたって本大会の運営にあたられた鳥取県学校図書館協議会の皆様はじめ、関係者の皆様にお礼を申し上げます。

■今西乃子氏の講演・学校図書館のバリアフリー化——

旭川市立愛宕中学校 司書教諭 加藤 直子

全国学校図書館研究大会は、「学校図書館に関わる者が集う2年に一度の祭典」であると思っておりますが、今回はどんな新たな出会いがあるのかと期待して参加しました

「学びを広げるひとをはぐくむ学校図書館」をテーマに、A～Nの14の講座が開催されました。

今回は個人的には今西乃子氏の講演を聴くことを大きな目標としていました。読書活動が全国的に盛んになり、朝の読書などを通して子どもたちは様々な本を読むようになりましたが、マスメディアが宣伝する流行の作品に流されているような危機感が自分自身にあり、ノンフィクションを書く作家の話が聞きたいと思ったからです。講演の内容は著書『犬たちを送る日』に関わって取材した捨て犬の焼却処分の現実を小学生に考えさせる出前授業の実践報告でした。これは犬の問題ではなく、人間が行っていることだ、という現実をつきつけるものでした。マスコミがあえて扱わないようなことを、一つ一つ拾い集めて私たちに真実を突きつけてくれるノンフィクションライターに頭が下がりました。また今後の学校図書館経営の中で、こうした優れた作品をどうやって生徒に読ませていくか、真剣に考えようと思いました。

あふれる情報の海の中にいながら社会で起こっている現実から切り離されている子どもたちに、実際の社会と向き合わせていくのも学校図書館の役割となるのか、と考えさせられました。

もう一つ報告したいのが『学校図書館のバリアフリー化』です。現在、旭川でも有志の先生方が手探りで研究を進めているところですが、全国的に見ても小中学校の学校図書館ではバリアフリーが具体的には進んでいないのが現状のようです。

マルチメディアデジ等、利用できるツールが開発されている、という知識を学校図書館担当者のみならず全ての教員が持つことが第一歩であると感じました。また、「特別な人のための特別な資料」として学校図書館に置くのではなく、誰でもいつでも気軽にふれることができるようにすることがバリアフリーの考え方であると学びました。

“大活字本やルビ付きの本などをあちこちの学校図書館が購入し利用していくことで出版社を動かすのだ”という意気込みが必要だと講師の話から学びました。未開発の領域ですが、地元に戻って環流し、バリアフリー化を進めたいと思いました。

研修後、全国SLAのレセプションでは、他県の先生方と交流することができました。また、北海道から参加した先生方とも米子の海の幸を楽しみながら交流することができ、楽しい4日間でした。

全道研究部長会から

北海道学校図書館協会第40回全道研究部長会が9月22日（土）、23日（日）の両日、かでの2・7で行われた。

1日目の前半には、平成25年度に開催が予定されている北海道学校図書館研究大会小樽大会についての概要が審議された。大会日程やこれまでにほぼ内定している公開授業会場校および授業者などが提案された。大会参加費については過去の大会実績から再度検討されることが確認された。また小樽らしさの見えるセッションの設定などについても意見が出され、次回の研究部長会までの運営事務局からの詳細な提案を待つこととなった。さらに小樽にゆかりある作家・著名人の記念講演への招聘も、今後決定が急がれることとなった。



後半には、小樽大会に向けて本年度研究テーマ及び重点等が小樽支部の森万喜子・田代和花子両先生より報告された。今後、過去の研究大会のテーマを参照しながら来年1月に北海道学校図書館研修講座の中で開催される全道研究部長会までには大会研究テーマが決定する予定である。

小樽大会の構想検討終了後には、道内各支部からの活動状況の報告があった。

札幌支部からは、7月末に東区内の中学校で行われた学校図書館クリニックの様子や12月以降に予定されている研究大会の進捗状況などが報告された。十勝支部からは、前研究大会開催の成果を活かしつつ、広域な支部ではあるが地道に活動・交流を広げていく状況が報告された。北見支部からは、市内各校における読書活動を広げていきたい願いが報告された。



2日目は、前日に引き続き道内各支部からの活動状況の報告が行われた。旭川支部からは、「司書教諭・学校図書館担当者研修会」の状況や平成17年度から始まった学校図書館補助員の配置の現状などが報告された。函館支部からは、学校図書館運営講座の様子や図書館データベース化作業の進捗状況などが報告された。空知・岩見沢支部からは、人員不足或いは適材適所になっていない現状での活動の停滞への懸念が報告された。苫小牧支部からは、「学校図書館の手引き」づくりや小中学校図書委員交流会の様子などが話題に上がった。室蘭支部からは、小中学校の統廃合が一段落した中での図書館活動の動きや支部人員不足の現状が報告された。帯広支部からは、創立50周年を記念した記念誌の発刊などが紹介された。

次年度の小樽大会に向けた本格的な審議や道内各支部の最新の活動状況を交流することのできた、実り多い2日間となった。
(文責 北海道学校図書館協会事務局次長 村山知成)

室蘭市支部

室蘭市支部は、「室蘭市教育研究会学校図書館部会」部員の先生方を中心に、市立室蘭図書館との共催などによる活動を行っています。

今年度も、①5月15日－「室蘭市の小・中学生に読ませたい選定図書」の決定（市立図書館で目録を印刷。1学期末に市内全小・中学校の児童生徒へ配布）②7月10日－学校図書館部会部員を対象とした「部会研修会」（今年は前室蘭市S L A事務局長の協力を仰ぎ、読書感想文の書かせ方・応募の方法等を中心に）③9月4日－市内読書感想文コンクールの募集・審査（特別賞・優秀賞に入選した児童生徒は、11月10日に市立図書館で表彰されます。また作品は、3月に発行される「読書」〈室蘭市選定図書読書感想文集〉に掲載されます。）を実施してきました。



今後は、④「小・中学生読後感想討論会」（市内小・中学校の児童生徒が集まり、その年毎に選定された本の内容・感想等について、助言者のアドバイスを受けながら話し合いをします。今年度は中学校が11月6日に、小学校は原作者を招いて11月27日に実施されます。）⑤12月26日－第2回部会研修会（図書館運営を中心に研修の予定）を実施の予定です。

室蘭市支部は、「選定図書」「感想文コンクール」「読後感想討論会」など、40年以上にわたり実施されてきた活動があり、今後もその活動を大切にしながら部員との交流を深めていきたいと思っています。

また、平成27年には室蘭市で「全道大会」が開催される予定であり、それに向けて今までの活動をより深め、さらに新たな活動を進める準備をと考えています。

(文責 室蘭市支部事務局長〈室蘭市立北辰中学校 教諭〉真砂 初美)

「読書会コーディネータ養成講習会」に参加して——7月7日 旭川市

札幌市立西岡小学校校長 浦田 日出雄

読書会というと、私には、2つの実践が思い浮かびます。一つは、元北海道学校図書館協会会長大川秀明氏が実践された「モチモチの木」(斉藤隆介著)で、もう一つは、元北海道学校図書館協会会長故大井源一郎先生が実践された「二十一世紀に生きる君たちへ」(司馬遼太郎著)です。

二つとも、指導者を仲立ちとして、子どもたちが読みを深めていく過程を追うことができた読書会でした。

読書会というと、読み取ったことを発表し合い、交流するというイメージを強く持っていました。しかし、この度、旭川市で行われた「読書会コーディネータ養成講習会」(講師:足立幸子氏 新潟大学教育学部准教授)に参加して、このような読書会というものもあるんだと思いました。私には、その気楽さ・簡便さ・話しやすさが印象に残りました。



当日は、まず、リテラチャー・サークル(読書指導方法の一つ)ってなに?つまり、初めて読む本を小グループで、話し合いながら読み進めていく読書会?普通の読書会じゃないのと声が聞こえてきそうだけれど、小グループの中にいろいろな役割があるんです。この辺は、講師の先生が、理論的な話をしてくださいました。

次に、講師の先生が用意した8種類ほどの本の紹介があり、どの本を読むか、希望をとりました。私が、選んだ本は、人数が少なかったので、次に少なかった本に自主的に移動しました。ですから、グループは、本中心に決定されました。いよいよ、リテラチャー・サークルがスタートしました。時間を決めて、読むページを決めました。私の最初の役割は、思い出し屋(この本で読んだことと、ほかのこととのつながりを発見すること)でした。他には、質問屋(グループで話し合ったらいいような質問を作ること)、段落屋(グループのみんなの前で音読したい段落やみんなと話し合いたい段落を選ぶこと)、イラスト屋(読んだ中から自分の好きなことや場面などを、絵にすること)ことば屋(読んだ中で、「とくべつな」ことばをみつけること)などです。5人のグループだとみんながどれかの役になれます。決めたページが終われば、役割を変えて読み進めていきました。

一人一人が違う役を担って、話し合ったり、交流し合ったりすることで、適度な緊張感と自分らしさを表現できる面白い手法だなと感じました。

人と人の出会い、人と本の出会い

第35回 北海道子どもの本のつどい「留辺薬・置戸大会」を終えて

北海道子どもの本連絡会 運営委員 本田 敬子



今年で35年目になる「北海道子どもの本のつどい」開催の歴史の中でも、初めての試みとなった2つの市町村にまたがる「留辺薬・置戸大会」が、8月4日～5日に無事終了しました。

「つどい」は文字通り、子どもの本に関わる全ての大人と子どもが「つどい」場です。司書さんや学校の先生、読み聞かせボランティアのお母さんや、プロやアマの作家の方たちまで様々な人々が一堂に会する機会は、そんなにありません。

1日目の基調講演者は長倉洋海さん。戦地や震災の被災地の子どもたちを丹念に取材されてきた貴重な経験を、写真家ならではの映像を多用して、お話をいただきました。夕方の交流会では、いまや全国的に有名になった置戸の給食の栄養士、佐々木十美さんの名物カレーに舌鼓を打ちました。

2日目の分科会では、午前中、学校図書館の分科会のメンバーも公共図書館分科会と合流して、置戸町立図書館と北見市立留辺薬図書館で、資料の充実ぶりや配架方法を目の当たりにしました。その後、札幌市の学校で長年の経験を持つボランティアによるブックトークも披露され、大いに参考になりました。午後の学校図書館分科会では、旭川の中学校図書館補助員の工夫を凝らした実践報告、また夕張市のボランティアによる学校図書館の整備についても報告がありました。

現地実行委員から「人と人の出会い、人と本の出会いを大切に」という思いをお聞きしましたが、まさしくそれを感じた大会でした。



第33回(2012年度)「絵と文による冬休み読書大賞」実施要領

- ・主 催 北海道学校図書館協会・北海道新聞社
- ・作品規定 対象図書は両部門とも、「平成24年度 北海道青少年のための200冊の本」です。200冊の本の校種別や学年指定はありません。北海道青少年のための200冊以外は対象外です。道内の小・中・高校生ならだれでも応募できます。

- ・応募要領
 - 【絵と文部門】

- 絵(感想画)：用紙は四つ切りサイズ(54cm×38cm)の画用紙。タテ、ヨコ自由。
 小学校1・2年は、八つ切り(38cm×27cm)での応募も可です。
 水彩・クレヨン・版画など自由。はり絵、切り絵、コンピューター使用のものは対象外。
 本を読んで印象に残ったこと、感動したことを表現しましょう。読んだ本の中に出てくる絵(さし絵)をまねたり、大人に手伝ってもらってははいけません。
- 文：400字詰原稿用紙に、小学生は1枚(350~400字)、中学・高校生は2枚以内(750~800字)に。
 原稿用紙に学校名、氏名、題名不要。直接文を書き出すこと。
 自筆のものとし、コピーやコンピューター使用は不可。誤字のないように気をつけましょう。絵の説明やあらすじを書くのではありません。本を読んで感動したことを中心にまとめてください。

絵と文を総合的に見て審査します。絵も文もしっかりかいてください。
 応募票は絵の裏にはり、絵は折らないで、原稿用紙は絵の下にはって送ってください。

- 【読書感想絵ハガキ部門】

- 用紙：郵便はがきか同サイズ(14.7cm×10cm)の画用紙。タテ、ヨコ自由。
- 絵：水彩・クレヨン・版画・色えんぴつ・クーピーなど自由。
 はり絵、切り絵、コンピューター使用のものは対象外。
 読んだ本の中に出てくる絵(さし絵)をまねたり、大人に手伝ってもらってははいけません。
- 文：基本的に何を使用してもかまいません。文字がにじまずきちんと読めるもので書いてください。
 自筆のものとし、コピーやコンピューター使用は不可。
 文字数は、小学生：50~100字程度、中学生以上：100~200字程度。本のあらすじを書くのではありません。本を読んで感動したことを、伝えたい相手に伝わるようにまとめてください。誰にあててかいたものなのかを応募票に書いてください。

絵と文を総合的に見て審査します。絵も文もしっかりかいてください。
 応募票は作品の裏にはってください。そのまま郵送してもかまいませんが、送付のさい、ご注意ください。

- ・応募締切 平成25年1月28日(月) (必着)
- ・応募先 〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 道新文化事業社
 「絵と文による冬休み読書大賞」係

☎ (011) 210-5735 (月~金 9:30~17:30、土・日・祝日休み)

平成24年度 北海道青少年のための200冊 (新たに選定された本45冊の中から20冊を抜粋)

	書 名	著 者 名	出 版 社	定 価
小学校1・2年 向き	てるちゃんのかお	藤井輝明 文/亀澤裕也 絵	金の星社	1,365
	くらくてあかるいよる	ジョン・ロッコ 作/千葉茂樹 訳	光村教育図書	1,575
	わたしはあかねこ	サトシン 作/西村敏雄 絵	文 溪 堂	1,365
	きたきつねのしあわせ	手島圭三郎 絵/文	絵本塾出版	1,785
	へちまのへーたるー	二宮由紀子 作/スドウ ピウ 絵	教育画劇	1,365
小学校3・4年 向き	おかえり! 盲導犬ビーン	井上こみち 文/広野多珂子 絵	佼成出版社	1,365
	ニコとねずみのすてきなせかい	マンフレート・マイ 作/ヨッヘン・シュトゥアーアマン 絵	フレーベル館	1,260
	サウスポー	ジュディス・ヴィオースト 作/はたこうしろう 絵	文 溪 堂	1,575
	レンタルロボット	滝井幸代 作/三木謙次 絵	学研マーケティング	1,260
	親子のための地震イツモノート	寄藤文平 絵/地震イツモプロジェクト 編	ポ プ ラ 社	1,260
小学校5・6年 向き	チョコレートと青い空	堀米薫 作/小泉るみ子 絵	そうえん社	998
	小道の神さま	竹内もと代 作/広野多珂子 絵	ア リ ス 館	1,470
	むこうがわのあのこ	ジャクリン・ウッドソン 文/E.B.ルイス 絵	光村教育図書	1,575
	おじいちゃんが、わすれても…	大塚篤子 作/こころ美保子 絵	ポ プ ラ 社	1,365
	竜の座卓	朝比奈蓉子 作/金沢まりこ 絵	偕 成 社	1,260
中学生 向き	テッドがおばあちゃんをみつけた夜	ペグ・ケレット 作/スカイエマ 絵	徳 間 書 店	1,470
	太陽のくに	エヴァ・アスムセン 作/枇谷玲子 訳	金の星社	1,470
	羊に名前をつけてしまった少年	樋口かおり 著	ブロンズ新社	1,470
高校生 向き	婢伝五稜郭	佐々木譲 著	朝日新聞出版	1,680
	世界を変えた化学反応 鈴木章とノーベル賞	鈴木章(監修)/北海道新聞社 編	北海道新聞社	1,365

※上記以外の「平成24年度版北海道青少年のための200冊の本」全リストは、北海道青少年育成協会ホームページで確認できます。

第45回北海道学校図書館研修講座へのご案内

主催 ●北海道学校図書館協会
後援 ●北海道教育委員会
 札幌市教育委員会
趣旨 ●学校図書館の運営及び情報・メディアを活用する学び方の指導、並びに読書指導に関する基本的事項について理解を深めるとともに、学校図書館の目指す方向と役割についての見識を深め、学校図書館の機能の向上を図ることを目的とする。
日時 ●平成25年1月7日(月)～9日(水)
会場 ●北海道立道民活動センター (かでの2・7)
 札幌市中央区北2条西7丁目 ☎(011)204-5100
 ●藤女子大学図書館 ☎(011)736-5407
 札幌市北区北16条西2丁目1-2
 →交通手段等は裏面の地図をご覧ください。
参加資格 ●学校図書館及び読書指導・学び方の指導に関わっている方ならどなたでも参加できます。
定員 ●150名
参加費 ●4,000円(資料代を含む)
参加申込 ●参加ご希望の方は、研修講座参加申込書に必要事項を記入して、12月3日(月)～20日(木)の期間に直接FAXにてお申し込みください。

研修講座申込先
 〒004-0002 札幌市厚別区厚別東2条4丁目5-1
 札幌市立小野幌小学校 山田佳子
 TEL (011)898-0552 FAX(011)898-2749

A. 共通講座
 ～参加者皆さんが受ける講座です。教育・学校図書館を取り巻く現状と展望について学びましょう。
講演 「新学習指導要領と学校図書館」
 東京学芸大学 特任教授 対崎 奈美子

- B. 選択講座：ファーストコース**
 1. 講義 「管理・運営、図書館活動」
 札幌市立発寒中学校 司書教諭 佐藤 敬子
 2. 講義 「読書指導、学び方の指導」
 札幌市立小野幌小学校 司書教諭 山田 佳子
- C. 選択講座：ステップアップコース**
 1. 講義・実習 「わくわく図書館ディスプレイ」
 札幌聖心女子学院 司書 新田 裕子
 2. 講義・実習 「ツポにはまる分類」
 石狩翔陽高等学校 司書 谷口 初江
 3. 講義・実習 「ステップアップ・読書アニメーション」
 札幌市立藻岩北小学校 司書教諭 佐藤 広也
 4. 講義・実習 「朗読を楽しもう」
 元HBCアナウンサー 朝日カルチャー講師 安藤 千鶴子
 5. 講義・実習 「今、岩手・宮城・福島の学び舎は」
 全国学校図書館協議会 参与 震災対応委員長 対崎 奈美子
 6. 講義・実習 「一日まるごとレファレンス」
 元藤女子大学 教授 渡邊 重夫
 7. 講義・実習 「リテラチャーサークル入門」
 札幌市立あいの里東中学校 司書教諭 浅村 麻姫子
- D. 校種別選択講座**
 1. 討議 「図書館資料の活用とその指導～小学校」
 小樽市立花園小学校 教諭 田牧 剛
 2. 討議 「図書館資料の活用とその指導～中学校・高等学校」
 札幌市立発寒中学校 教諭 本間 由美
 3. 討議 「図書館資料の活用とその指導～特別支援」
 音更町立木野東小学校 教諭 岩井 洋美
- E. 選択講座・高校コース**
 1. 講義「管理・運営」石狩翔陽高等学校 司書 谷口 初江
 2. 講義「交流」
- F. ナイター**
 1. もっと！本の話しよう
 2. 電子書籍ってなあに？
 3. いいマンガ、ない？
- G. 指導者研修講座（全道研究部長会）**
 1. 第40回北海道学校図書館研究大会小樽大会の計画
 2. 支部研究交流
 各支部研究部長
 北海道学校図書館協会研究部長 佐藤 敬子（札幌市立発寒中学校 司書教諭）
 北海道学校図書館協会事務局次長 村山 知成（札幌市立栄西小学校 教諭）

～研修日程～

1月7日(月) 〈かでの2・7〉

9:30	10:00	10:25	12:00	13:15	16:30	18:00	20:00
受付	開講式	A. 講演 (4F大会議室)	昼食	C1. ディスプレイ		懇親会	懇親会は講演をしてくださる対崎先生を囲んで行います。本の話や図書館の悩みなどを気軽に話し合います。
				C2. 分類			
				C3. アニメーション			
				G1. 研究部長会			

1月8日(火) 〈かでの2・7、藤女子大学図書館〉

9:30	12:00	13:15	14:40	16:30	18:00
C4. 朗読	昼食	B1. 運営、活動	B2. 読書、学び方の指導	F1. もっと本	
C5. 被災地は今		C7. リテラチャーサークル	F2. 電子書籍		
C6. レファレンス(藤女子大)		C6. レファレンス(藤女子大学)	F3. いいマンガ		
E1. 高校 管理・運営		E2. 高校 交流			
G2. 研究部長会					

1月9日(水) 〈かでの2・7〉

9:30	11:30	11:50
D1. 討議〈小〉	閉講式	
D2. 討議〈中・高校〉	閉講式	
D3. 討議〈特別支援〉	閉講式	

学校図書館情報



◆「ホントノキズナ」 2012年 第66回 読書週間

10月27日(土)～11月9日(金)

標語入賞者、沖縄県の河田衡兵さんの言葉。「今春、父が病気で他界しました。実家で通夜、葬儀を終え、父の持ち物を整理していると、書齋から懐かしい本がたくさん出てきました。私が「本」を扱った仕事をしていることを含め、改めて本を通して父との「絆」を再確認できました。本っていいものですね。」



◆『資料集：子どもの読書推進 学校図書館の整備充実に向けて』刊行

議会・自治体へ予算化を求める際の行動マニュアルや、学校図書館・子どもの読書関連の法令・基準や解説を掲載。地域での予算化運動に活用を！

発行 全国SLA、文字活字文化推進機構・学校図書館整備推進会議

頒価：300円 学校図書館整備推進会議（日本児童図書出版協会内）

TEL：03-3267-3791 FAX:03-3267-5389

◆全国SLAのメールマガジン 創刊

月2回配信、購読料は無料。創刊号は10月10日発行です。内容は、全国SLAからのお知らせ、学校図書館に関するニュース、研修会情報など。

登録は、全国SLAのホームページからです。

◆第26回「よい絵本」解説目録Web Book版

全国SLAでは、これまでカラー解説目録『よい絵本』を刊行し、普及にあたってきましたが、今回からWeb Book版として新たにスタートしました。

全国SLAのホームページから、「よい絵本」バナーをクリック。

◆第58回青少年読書感想文全道コンクール 第38回北海道指定図書読書感想文コンクール

多数の応募、ありがとうございました。

全道審査は、10月15～27日に行われます。

表彰式 12月2日(日) 10:00～12:00

札幌センチュリーロイヤルホテル

(札幌市中央区北5条西5丁目)

事務局

事務局長 齋藤 昇一 (札幌簾舞中学校校長)

TEL 011-596-2320

FAX 011-596-2321

事務局校 札幌市立平和通小学校

事務局次長 野村 邦重

〒003-0027 札幌市白石区本通15丁目北3-1

TEL 011-863-0235 FAX 011-863-0265

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメンティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15

TEL (011) 857-3331

FAX (011) 857-5211

◆佐藤凉子さん「ブックトークの実技と講演」のお知らせ 11月21日(水)

札幌市立北光小学校 (札幌市東区北12条東6丁目)

5校時 13:45～14:30 4年

6校時 14:35～15:20 5年

15:30～16:30 講演会

「子どもたちに読書の楽しさを」

11月22日(木)

札幌市資料館 研修室 (札幌市中央区大通13丁目)

15:00～17:00 「ブックトークの実技と講演」

主催 北海道学校図書館協会、札幌市学校図書館協議会、札幌おはなしの会

参加無料、事前申込必要

札幌市内：札幌星置東小 長堀宛 FAX 694-0651

札幌市外：札幌平和通小 野村宛 FAX 011-863-0265

◆ビブリオバトル(知的書評合戦)北海道ブロック決戦

9月28日(金)紀伊國屋書店札幌本店にて、ビブリオバトル北海道主催で開催されました。

道教育大学札幌校の大上泰裕さん『ぼく、ドラえもんでした。』が「チャンプ本」に選ばれました。全国大会は10月21日東京で開催。前年度全国優勝の道教育大学岩見沢校の杉目美奈子さんと、2名が出場しました。

編集後記

9月は全道各地で観測史上初という残暑が続きました。10月になりやっと秋らしくなりましたが、冬の便りが届くのはもうすぐのようです。今年の秋はあっという間に過ぎていきそうです。さて本号は、8月に開催された第38回全国学校図書館研究大会米子大会を始めとして、各地で開催された様々な大会についてお知らせしています。読書週間に入り、校内でも読書に関する行事に取り組みされている方が多いことでしょう。子どもたちと本を近付けるために色々な実践を積み重ねていきたいものです。

(編集：齋藤 昇一 杉本 操 村山 知成)
大久保雅人 野村 邦重 飯島 道恵)

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>